

「峯堂・尾崎行雄」 略歴

(尾崎行雄記念財団 HP より)

「昨日まで ためせる事も見し事も 明日往く道の するべなるべし」

- 1858年 相模国（神奈川県）津久井郡又野村に生まれる。
- 1869年 父の新政府仕官に伴い上京。その後、父の転任で高崎（群馬）、
度会県山田（三重県伊勢市）に移住。
- 1874年 板垣退助、後藤象二郎らが「民撰議院設立建白書」を提出。
尾崎は慶応義塾に入学するも、一年半で退学。
- 1876年 帝都四大新聞の一つ曙新聞に「討薩論」を投書、掲載され大きな
反響を呼ぶ。
- 1879年 福沢諭吉の推薦で、新潟新聞の主筆となる。
- 1881年 明治14年の政変（伊藤と対立する大隈が参議を罷免された事件）
- 1882年 大隈重信の「立憲改進黨」結成に犬養毅らと携わる。その頃から
雄弁家として名を馳せ、犬養と共に各地を遊説。
- 1887年 後藤象二郎に呼びかけ、党派を超えて大同団結、後藤を代表とす
る「丁亥倶楽部」を結成し、藩閥政治反対運動を展開。
その12月、「保安条例」により東京退去を命じられる。
- 1888年 1月米国・英国に外遊。
- 1889年 「大日本帝国憲法」発布。恩赦により東京退去命令が解かれ、1
2月に帰国。
- 1890年 第1回総選挙実施。三重県から立候補し当選。
(以後、25回の連続当選は議会史上に残る記録)。
- 1891年 第2回総選挙実施される。これが歴史に残る「選挙大干渉」とな
り中傷・妨害を受けたが、きびしい選挙戦に堪えなんとか当選。
その後の議会でも、軍閥・藩閥政治を攻撃する演説を積極的に行
う。
- 1898年 6月日本最初の政党内閣が成立。大隈重信が首相、板垣退助が内
務大臣、尾崎は文部大臣に。
8月「共和演説事件」が起き、10月文部大臣を辞職。
- 1903年 東京市長に就任。上下水道拡張、下水道工事、道路改良、街路樹
植栽、港湾整備、東京市街鉄道の買収、ガス会社の合併などを実
施。さらに、多摩川水源林調査に着手し、市の水源を買収確保。

- 1909年 米国大統領タフト夫人が、首都ワシントンのポトマック河畔に桜を植えたいとの希望していることを知り、苗木2000本を送る。その後、害虫被害で焼却される。
- 1912年 新たに3000本送る。
(このお礼にアメリカから送られたのがアメリカはなみづき)
- 1912年 東京市長を辞任。犬養と共に憲政擁護運動を起こす。この頃からこの二人は「憲政二柱の神」と呼ばれる。
- 1913年 後に桂首相を死に至らしめたといわれる桂内閣弾劾演説を行う。
- 1914年 シーメンス事件で山本内閣弾劾演説を行い、辞職に追い込む。
第二次大隈内閣で司法大臣に就任。
- 1919年 第1次世界大戦後のヨーロッパ視察し、帰国後「戦争は勝っても負けても悲惨な状況をもたらす」として平和主義・国際主義による世界改造の必要を説く。
- 1920年 普通選挙の先頭に立つ。
- 1921年 軍備制限論を掲げ、軍縮を説き全国を遊説。
- 1924年 第二次護憲運動の先頭に立つ。
- 1931年 カーネギー財団に招かれ米国に滞在。満州事変勃発の報を聞き、「日本は間違っている」と主張。「国賊・尾崎を殺せ！」という圧力が日に日に強まるも主張を曲げず。
- 1937年 議会で辞世の句を懐にして軍部批判演説をする。
- 1942年 翼賛選挙に反対し、東条首相に公開質問状を送り、また同年、選挙中の応援演説が不敬罪であると起訴され、巣鴨拘置所に。
(44年、大審院で無罪判決に)。
- 1945年 12月 全世界の協調と世界平和の実現を願い、「世界連邦建設に関する決議案」を議会に提出。
- 1952年 衆議院より憲政功労者として表彰される。
同年、病床より立候補、当選(連続25回目)
- 1953年 4月第26回総選挙で始めて落選。
7月衆議院名誉議員に。
10月東京都名誉都民(第1号)に。
- 1954年 10月「憲政の神」、「議会政治の父」と仰がれつつ、逗子の風雲閣にて永眠(享年95歳)。

「人生の本舞台は 常に将来にあり」